

ケース 5 : ArcMap 上のデータを Web に公開したい



クレジット消費 : この操作で 10 MB のデータを保存した場合、
1 か月につき 2.4 クレジットを消費します

サイン イン : 必要 (ご登録された ArcGIS Online のアカウント)
※個人向けのアカウントでは利用できません

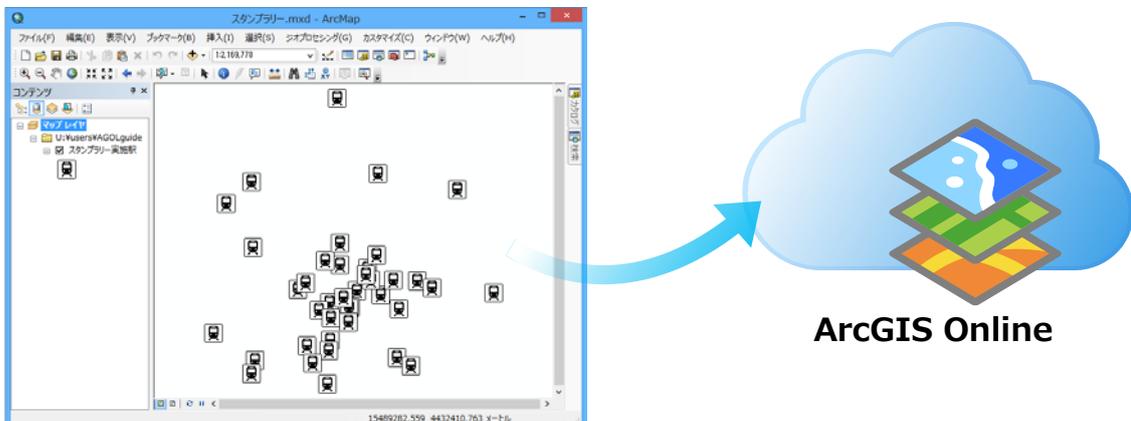


ライセンス要件 : ArcGIS 10.2 for Desktop 以降
Desktop Standard / Advanced
エクステンション 不要

ArcMap で作成したデータを Web 上で閲覧できるようにしたいと考えています。GIS データを Web 上で共有するには、通常、ArcGIS for Server を利用し GIS サービスとして公開しますが、ArcGIS for Server のライセンスは所有していません。

このようなときは、ArcGIS Online のホスト サービスを利用できます。

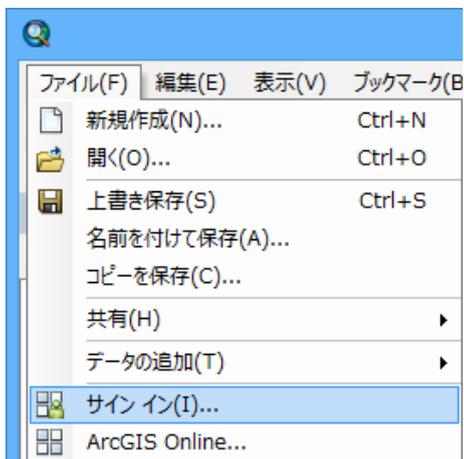
ArcMap 上のデータを Web に公開



次の手順を参考に、ArcMap で操作を行ってみましょう。

サービスの公開

1. ArcMap で Web に公開したいデータを追加し、[ファイル] メニューから [サイン イン] をクリックします。

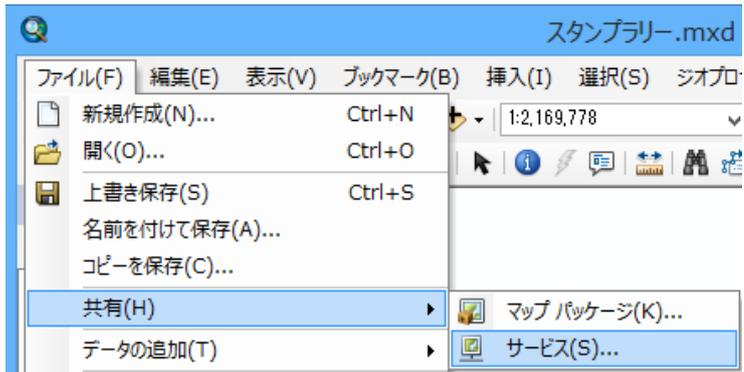


2. [ArcGIS サイン イン] ダイアログで、ご登録された ArcGIS Online のユーザ名とパスワードを入力し、[サイン イン] をクリックします。



マップに追加されているすべてのレイヤがサービスとして公開されます。サービスとして公開しないレイヤは、次の「サービスの公開」の手順に進む前に削除してください。ベースマップが追加されている場合も削除してください。

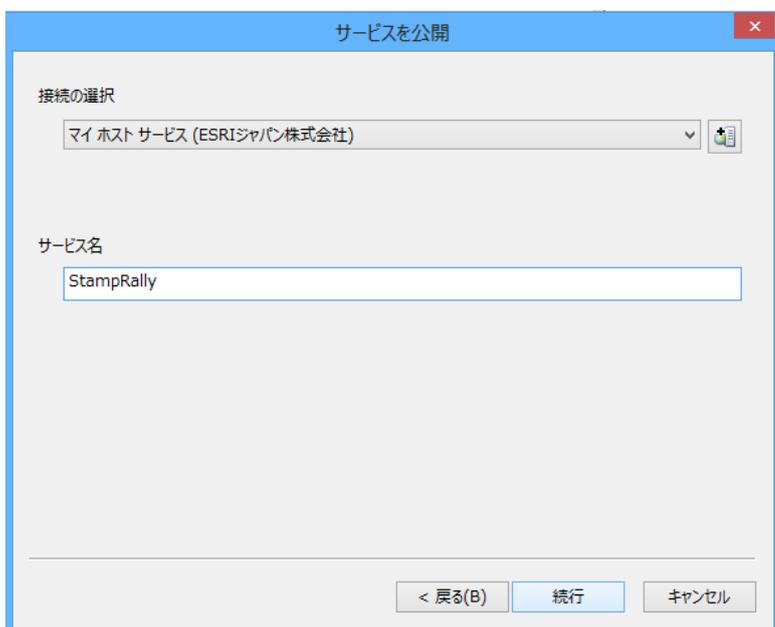
3. [ファイル] メニューの [共有] → [サービス] をクリックします。



4. [サービスとして共有] ダイアログで [サービスを公開] のまま [次へ] をクリックします。



5. [サービスを公開] ダイアログが表示されます。[接続の選択] のプルダウンから [マイ ホスト サービス] を選択し、任意のサービス名を指定して [続行] をクリックします。



サービスの公開

接続の選択
マイ ホスト サービス (ESRIジャパン株式会社)

サービス名
StampRally

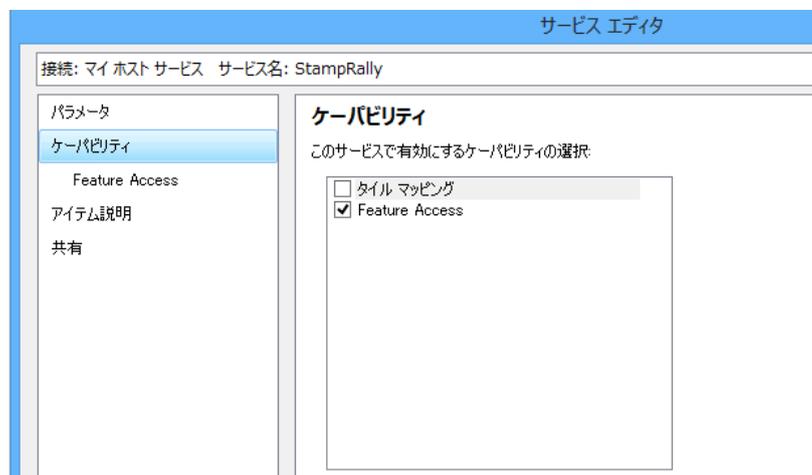
< 戻る(B) 続行 キャンセル



ここで指定するサービス名は URL の一部となります。サービス名には、**半角英数および「_」(アンダースコア)のみ**を使用してください。

6. [サービス エディタ] が起動したら、左側の [ケーパビリティ] の項目をクリックし、[Feature Access] チェックボックスをオンにし、[タイル マッピング] チェックボックスをオフにします。

左側の [ケーパビリティ] 配下に [Feature Access] ケーパビリティの項目が追加されます。



サービス エディタ

接続: マイ ホスト サービス サービス名: StampRally

パラメータ
ケーパビリティ
Feature Access
アイテム説明
共有

ケーパビリティ
このサービスで有効にするケーパビリティの選択

タイル マッピング
 Feature Access



タイル マッピングとは、事前に描画されたタイル状の地図画像（タイル マップまたはキャッシュ マップ）を作成することです。タイル マッピング サービスの表示パフォーマンスは高いですが、タイル マップの作成に時間がかかるため、本書では扱いません。

7. [アイテム説明] の項目をクリックし、サービスのサマリやタグを入力します。タグは、ArcGIS Online でレイヤを検索するときのキーワードになります（複数入力可）。複数のタグを入力する場合には、タグとタグの間をカンマで区切ってください。

サービス エディタ

接続: マイホスト サービス サービス名: StampRally

インポート 分析 プレビュー 公開

パラメータ
ケーバリティ
Feature Access
アイテム説明
共有

アイテム説明

サマリ (必須):
鉄道スタンプラリーの実施駅

タグ (必須):
スタンプ, ラリー, 電車, 鉄道, 駅
タグを選択...

説明
関東地方の民間鉄道で行われているスタンプラリーの実施駅をポイントで示したものです。

アクセスと使用の制限:
著作権

アイテム説明に基づいてドキュメント内で欠落しているメタデータを更新

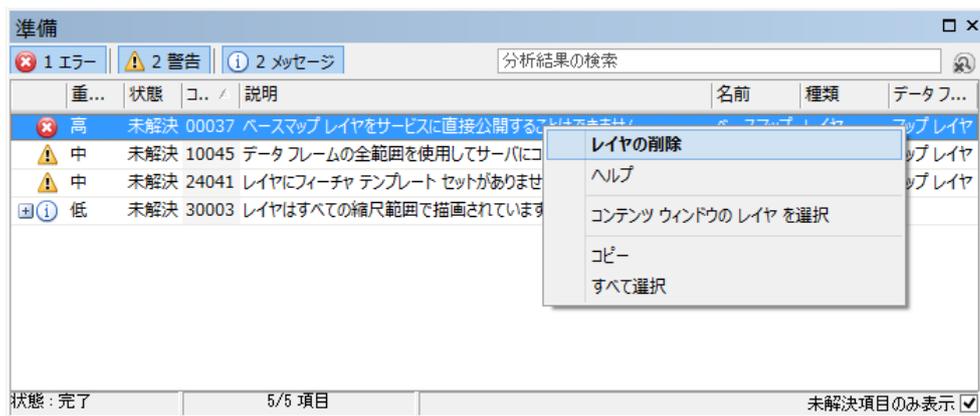
8. [共有] の項目でサービスの共有を許可するユーザを選択できます（デフォルトでは自分だけが閲覧できる設定になっています）。
9. サービス エディタのダイアログ右上にある [分析] をクリックします。

サービス エディタ

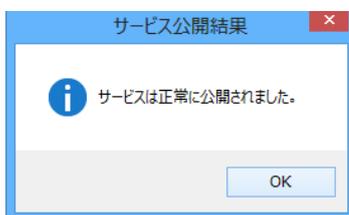
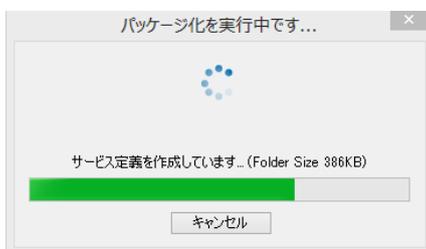
接続: マイホスト サービス サービス名: StampRally

インポート 分析 プレビュー 公開

10. [準備] ウィンドウが表示されます。レイヤに何らかの問題があると、[準備] ウィンドウに「エラー」や「警告」などのメッセージが表示されます。「エラー」が表示された場合は、レイヤをサービスとして公開する前に問題を修正する必要があります。たとえば、下図ではベースマップによるエラーが発生しているため、エラー内容を右クリックして [レイヤの削除] を選択します。「警告」や「メッセージ」については必ずしも修正する必要はありませんが、それらの問題がサービスのパフォーマンスに影響をおよぼす可能性があるため、必要に応じて対処してください。



11. サービス エディタのダイアログ右上にある [公開] をクリックします。「サービスを公開しています…」などのメッセージが表示され、しばらくして「サービスは正常に公開されました。」のメッセージが表示されれば完了です。



まとめ

ArcMap では、手持ちのデータを ArcGIS Online のホストするフィーチャ サービスとして公開し、インターネットを通じて他のユーザと共有することができます。

サービスとして共有されたデータから ArcGIS.com サイトで Web マップを作成すると、Internet Explorer や Google Chrome などの Web ブラウザで閲覧できます。